４年　国語科学習指導案

授業者　大阪市立海老江西小学校　山田　彰子
大阪市立南住吉小学校　下田　恵助

１　日　　時　　令和８年１１月１０日（火）第５校時（１４：００～１４：４５）

２　学年・組　　第４学年い組（海老江西）（在籍２９名）、第４学年３組（南住吉）（在籍３３名）

３　単 元 名　　和室と洋室のよさをしょうかいしよう
（「くらしの中の和と洋」東京書籍４年下）

４　単元目標

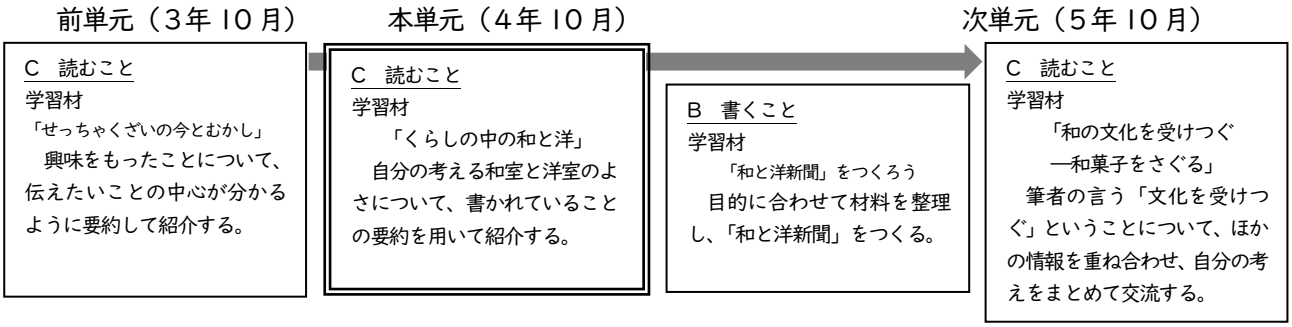
（１）　比較や分類の仕方を理解し使うことができる。
〔知識及び技能〕(２)イ

（２）　目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕Ｃ（１）ウ

（３）　文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕Ｃ（１）オ

（４）　言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

５　単元間の関連と系統



６　単元で取り上げる言語活動

「学級の友達に和室と洋室のよさを紹介する」という言語活動を設定する。これは、自分の考える和室と洋室のよさについて、学習材の要約を用いてカードにまとめるというものである。

この言語活動を行うためには、①学習材から「和と洋それぞれのよさ」を読み取る力②学習者自身の生活と結び付けて「よさ」について考えをまとめる力③紹介したい和室や洋室のよさを明確にした上で、それと結び付くだいじな言葉を選び要約する力が必要となる。その際、自分の考える「よさ＝生活で生かしている・生かせる場面」と学習材で説明されている「和室や洋室のよさ」とがつながるように適切な語や文を判断し、選択することが求められる。

「読むこと」単元で身に付けるこれらの力は、「書くこと」単元「『和と洋新聞』をつくろう」で、目的を意識して材料（情報）を整理し、和と洋のよさを伝える新聞をつくるという学習につながるものである。

したがって、「読むこと」と「書くこと」の単元をつなぐのに適した言語活動であると考えた。
（関連：〔思考力・判断力・表現力等〕Ｃ（２）ア）

7　評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比較や分類の仕方を理解し使っている。　　((2)イ)	①目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができている。（C(1)ウ） ②文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができている。（C(1)オ）	①これまでの学習を生かして学習課題を明確にし、学習の見通しをもって、積極的に和室や洋室のよさを伝えるために必要な語や文を見付け、要約して、考えをまとめようとしている。

8　指導にあたって

【児童観】

本単元における付けたい力を育むために、学習者は次のような学習を積み重ねてきている。

前単元「ヤドカリとイソギンチャク」において、段落ごとの内容を捉えながら「始め・中・終わり」に分けて、段落同士のまとまりについて考えてきた。「問い」の数を数え、「問い」と「答え」の関係を正確に読み取ったり、「まず」、「次に」、「では」などの接続語に着目したりすることで段落相互の関係を捉える活動を行った。段落ごとに書かれていることを表に整理していく活動を通じて、「中」には事例を挙げた上で筆者の考えが述べられていることなどに気付くことができた。さらに、段落ごとの中心となる語に着目して、短い文にまとめることもできた。４年生のこの時期の学習者は、言葉の働きに着目し、読み取った内容を分類していくことで、筆者の主張を捉えていくことができるようになることを学習してきている。これらの学びは、本単元で育みたい「学習材から「和と洋それぞれのよさ」を読み取る」ことへと接続されるものである。

要約については、３年「せっちゃくざいの今と昔」において、文章の内容を短くまとめるには、文章の中から中心となる語や文の抜き出しが必要であることを学習している。しかし、抜き出す語や文は、何を伝えたいかという目的によって変化するものである。４年時における要約の学習では、この点に留意して指導する必要がある。

【単元観】

本単元では、自分の考える和室と洋室のよさについて、要約したことを用いて紹介する文章を書くことを言語活動として設定している。

本学習材「くらしの中の和と洋」は、「始め・中・終わり」の文章構成がはっきりとしている。「中」では、「住」を例に、和室と洋室とを対比しながら、日本人が両方の文化のよさを取り入れ、暮らしていることを説明している。それぞれのよさを対比して述べる段落構成になっているので、中心となる語や文が見付けやすくなっている。「中」は三つに分けられ、中１を受けて中２と中３が並列で書かれている。中１では、和室と洋室の最も大きな違いが、床の仕上げ方とそこに置かれる家具だと示されている。この違いが、それぞれの部屋でのすごし方の違いや部屋の使い方の違いの差を生み出すとしている。すごし方や使い方のよさの説明では、例えば、椅子や座布団といった道具（家具）や座るというひとつの動作を事例として取り上げて説明することで、具体的にそれぞれのよさをイメージすることができ、文章の内容を読み取りやすくなっている。また、中２では、両方のよさのみを対比し、中３では和室のよさを強調するために「洋室の使いにくいところ」を例として挙げ、対比するという特徴がある。このように、対比した述べ方は、納得した読みを自然に読み手へ促すものである。

しかしながら、和室で過ごす経験をしたことのない学習者が多いことが予想されることや、「洋室・和室」といった区別をすることなく過ごしているであろう学習者が、筆者の考える「よさ」について実感を伴って読む

ためには、自分の生活場面と結び付けながら具体的に想像する場面を設ける必要があると考えられる。そこで、「中」を扱う際に、それぞれのよさについて、実際に自分の生活で「生かしている・生かせる」場面を考えながら読み進めることは、納得を伴った読みとなるであろう。

他にも、順序を述べるときの表現、まとめて述べるときの表現、問いかけの表現、指示語を使った表現などわかりやすく説明的な文章を書くためのさまざまな技法が用いられている。順序を述べるときの表現や問いかけの表現などについては、前単元までに学習した内容であり、本単元で文章構成を考える際に活用できることが期待される。また、考えを述べるときに、具体的な例を挙げることで、読み手に分かりやすく伝えることができる。これらのことは、学習者に説明の仕方の工夫として気付かせたい事柄である。

終わりでは、わたしたちは和と洋両方のよさを取り入れて暮らしており、「衣」や「食」についても同じように考えてみようと投げかけて締めくくっている。この呼びかけの言葉から、学習者の意識が「住」以外についても、自分たちで調べてみたいという活動に自然とつながっていくと考えられる。

このように、教材文の内容を確かめる際には、和室と洋室のよさを観点に沿って比較しながら、考えと具体例とに整理してまとめるという情報の整理の仕方についても学習することに適した学習材であると考える。そして、それぞれのよさを自分の生活と結びつけて具体的に考え、紹介したいよさを決める。自分が紹介したいよさに結び付くだいじな言葉を選び・つなげる（要約する）と学習を展開することは、目的に合わせて要約する力を付けるという本単元のねらいに適しているといえる。

【指導観】

第一次では、学習材全文を読み、初発の感想を書く。初発の感想は、主に、「なるほどな・そうかな？」「もっと知りたいこと・深く読み取りたいこと」について書かせるようにする。これらの学習者の感想をもとに、「自分の身近な人が幸せってどんなことがあるだろう」と身近な人の生活の様子を具体的に想像させ、「和室か洋室か」「それぞれのどんなよさを選ぶか」を決める際の手がかりとする。第三次で新聞の記事の一つになるような「よさ紹介カード」を書き、友達と読み合う学習をするということを学習者に知らせる。その際に、自分の身近な人が用いることを想定した場面を設定する。この設定が、「どんな人に、どんな（和室や洋室の）よさを伝えたいか」という学習者それぞれが伝えたい目的の生成の基盤となる。その上で、紹介カードにまとめることを伝える。このことにより、紹介カードを書くために、よさを具体的に考え、和室や洋室のよさを紹介するための要約を学ぶという学習の見通しをもち、第二次で教材を読み進める際の読みの構えをつくることができるようにする。

また、「もっと和と洋のよさを調べたい」「衣や食についても和と洋のよさがどのように生かされているのか考えたい」という感想も多いことが予想される。そこで、学習者の感想を基に、「和と洋の新聞づくり」をおこなうことを提案する。このことにより、学習者が、次単元（書く単元）とのつながりを意識して学ぼうとする学習の構えをつくることができるようにする。

第二次では、文章構成を確かめ、学習材の内容を読んでいく。文章構成を考える際には、まとめて述べるときの表現を手がかりに「始め・中・終わり」に分けるようにする。さらに各段落の主語を確かめ、順序や対比等のつなぐ言葉を手がかりに「中」を三つのまとまりに分け、筆者の伝えたいことを大まかに捉えることができるようにする。

自分の想定する設定を決めて、その根拠となるように、それぞれの部屋の「すごし方」「使い方」がわかる語や文を見付け、線を引くようにする。次に、線を引いた部分や短くまとめた文について交流することで、それぞれのよさや違いを捉えられるようにする。自分の設定を決める際【設定の地図】を活用することで、学習者に自分の学び方を決めさせる。

【設定の地図】

・１つの設定を掘り下げる学び：１つの設定で「すごし方」「使い方」「両方」のよさの要約文を書く。

・２つの設定を比べる学び：２つの設定で要約し、最後にどちらかを選んで要約文書く。

・３つの設定を比べる学び：それぞれ違う設定で要約文を書く。

※どの学びを選んでも評価に影響なし。

その際、「よさ」と「具体例」を箇条書きでまとめたり、「これに対して」等の対比の表現に着目し、内容

が対比の関係になっているものは矢印を書き込んだりすることで、分かりやすく整理できるようにする。この時に学習者自身が、第一次で設定した場面から、１つ選んでその伝えたい目的に合わせたよさを本文から見つけ、「すごし方」「使い方」それぞれについて要約する。そして、学習材に載っている和室と洋室の具体例をもとに、実際の生活でそれぞれのよさを「生かしている・生かせる」場面を問うことで、「こういう時は和室がいいなあ。」「こんなときは洋室が使いやすいなあ。」と、学習者が自らの生活経験を想起し、よさを具体的に捉えることができるようにする。このような活動を通じて、学習者が伝えたい目的を明確にすることがねらいである。ここで出た具体例は壁面に掲示し、いつでも振り返ることができるようにすることで、紹介カードを書く際に生かしたい。

「よさ紹介カード」を書く学習では、それまでに考えてきたことを元に、まず、自分の生活と結び付けて「いつ・誰と（が）・どのように過ごす時」「その時には和室と洋室のどちらがよいと思うか」を想定し、紹介したいよさを考え、まとめる。次に、紹介したい和室や洋室のよさの文章と結び付く言葉を学習材から要約する。書いたことを交流する際には、①「紹介したい和室や洋室のよさの文章（自分の選んだ設定）」と、「学習材の要約」の内容の整合性がある。②主述の関係が適切である。③だいじな言葉をつなぐことができている。前文で示した①②③のことを学習者同士で交流して要約した部分が合っていること確かめ、よりよい要約文となるようアドバイスできるようにする。また、本単元で書いた「よさ紹介カード」は、次の単元での新聞づくりの記事の一つとして載せるようにする。

第三次の単元の振り返りでは、毎時間の振り返り、ワークシート、紹介カードを基に、本単元の学習を通して、学んだことやできるようになったことを振り返ることができるようにする。その際、「自分の紹介したいことの目的に合わせて大事な言葉を抜き出したり、必要に応じて言葉を言い換えたり、補ったりして要約することができたか」と共に、「説明されている事柄を観点に沿って対比し、整理してまとめることのよさ」を感じたり、次の学びに生かそうとしているかを振り返ることができているとなおよいと考える。また、授業者が見取った学習者の変容を伝えることで、学んだ自覚がより促されるようにしたい。

９　指導と評価の計画（全９時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
一	１	○範読を聞き、初発の感想をもつ。	・題名を読み、学習材で取りあげられている和と洋の「なるほどな・そうかな？」「もっと知りたいこと・深く読み取りたいこと」の観点を示すことで、読んだことについて感想をもてるようにする。	
	２ ３	○初発の感想を交流し、文章構成について考え、内容の大体をつかむ。	・既習事項を振り返り、それぞれの段落の主語や接続語を確かめながら、学習材を「始め・中・終わり」に分けられるようにする。 ・交流した感想をもとに、実際に自分の生活のどんな場面で和室と洋室のよさを生かしているかを問うことで、「よさ」とは何かを追求して、課題意識をもてるようにする。 ・問いかけの文やくり返し出てくる言葉に着目することで、「過ごし方」「使い方」について説明されている段落のまとまりを捉え、中が三つのまとまりで構成されていることに気付くこと	

		○身近な人が幸せに過ごすためにはどんな部屋に住むのが良いかという設定を考える。	ができるようにする。 ・相手や場面の違う複数の選択肢を提示することで、自ら考え、選択する場を設定し、学習を自分事と捉え、主体的に取り組めるようにする。 ・身近な人を想定して考えさせることで、本文を読むための動機付けにつなげる。 ・和室がいいか洋室がいいかを選び、主張と理由を一文ずつで書く ・指導者が書いた「紹介カード」を提示することで、ゴールの見通しをもつことができ、要約の必要性に気づけるようにする。	
二	4本時	○和室と洋室の「すごし方」のよさについて考え、自分の選んだ設定に合わせて要約する。	・自分の選んだ設定に合わせて、「すごし方」の視点からどんな特徴があるかを考えて、整理できるようにする。 ・本文の「すごし方」のよさを根拠に、自分の選んだ設定とその理由が適しているか、交流を通して考えさせる。 ・自分の選んだ設定に合わせて、「使い方」の視点からどんな特徴があるかを考えて、整理できるようにする。	
	5	○和室と洋室の「使い方」のよさについて考え、自分の選んだ設定に合わせて要約する。	・本文の「使い方」のよさを根拠に、自分の選んだ設定とその理由が適しているか交流を通して考えさせる。 ・自分の選んだ設定に合わせて、和室と洋室のどちらがよいと思うのか、文章にするように助言する。	［知識・技能①］ 観察・ワークシート ・写真と教材文を結び付けて、それぞれのよさや具体例を対比させて整理しているかの確認
	6 7	○よさ紹介カードを書く。自分の選んだ設定に合わせて、和室や洋室のよさを本文から選び、考えをまとめる。	・紹介カードの内容を納得してもらうために、学習材の要約文を加えることを伝える。 ・要約のポイントを示すことで、書き出しを決め、だいじな言葉を適切につなげて要約することができるようにする。 ・前時に書いた紹介文の内容と結び付くよう適切に要約できているかを確かめるために、友達どうしで読み合うように助言する。	［思考・判断・表現②］ 観察・ワークシート ・和室と洋室のよさについて自分の生活で生かしている場面を考え、まとめているかの確認 ［思考・判断・表現①］ 観察・ワークシート ・和室と洋室のよさを自分の考えと結び付くように要約しているかの確認
三	8	○和室と洋室の紹介カードを読み合う。	・友達の紹介カードを読むことで、多様な考えがあることに気付かせる。自分の考えと同じところ、似ているところ、違うところを確かめながら読むよ	［主体的に学習に取り組む態度①］ ・学習の見通しをもって、積極的に和室や洋室の

		○単元を振り返る。	うにさせる。 ・単元を振り返り、学びや気付きなどを書かせたり、学習者の変容や努力を伝えたりすることで、学びを自覚できるようにする。 ・「次の学習に生かせそうなこと」を、次単元の「和と洋新聞づくり」の学習につなげるようにする。	よさを伝えるために必要な語や文を見付け、要約して、考えをまとめようとしているかの確認

［知識・技能①］観察・ワークシート

「おおむね満足できる」状況（B）評価

・自分の選んだ設定に合わせて、和室と洋室のすごし方のよさ・使い方のよさが伝わる言葉を選んで要約することができる。

・自分の選んだ設定に合わせた言葉を選んで要約するために、本文から必要な言葉を選び、主語と述語を繋げ、１～２文で書くことができる。

「努力を要する」状況（C）への手立て

・自分の選んだ設定【誰が・どんなことをして過ごすためのよさか】を確認させる。

・「すごし方」「使い方」どちらに伝えたい目的の根拠が示されているか比較する。

［思考・判断・表現①］観察・ワークシート・カード

「おおむね満足できる」状況（B）評価

・和室と洋室のよさを読み取り、選んだ言葉が自分の選んだ設定に合っているかを考えて８０字程度で文章にまとめている。

「努力を要する」状況（C）への手立て

・「だれが（と）、いつ、何をして、どのように過ごすのか」「その時には和室と洋室のどちらがよいのか」を分けて書くワークシートを用いることで、自分の選んだ設定に合ったよさを具体的に考えることができるようにする。

・他の学習者から出た意見を参考にするよう促すことで、自分の選んだ設定にも活用できないかを考えることができるようにする。

［思考・判断・表現②］観察・ワークシート・カード

「おおむね満足できる」状況（B）評価

・自分の考えと結び付くように学習材（教材文）から必要な言葉を選び、主述の関係に気を付けて８０字程度で要約している。

「努力を要する」状況（C）への手立て

・紹介するよさが「和室のすごし方」「洋室のすごし方」「和室の使い方」「洋室の使い方」のどれかを確認し、よさが説明されている段落を確かめる。

・第二次の学習時にそれぞれのよさの部分に線を引いた全文プリントから、必要な言葉を選ぶよう助言する。そして、言葉と言葉をつなぐ際には、一つの文に主語や述語の重なりがないよう助言する。

［主体的に学習に取り組む態度①］観察・ワークシート・カード

「おおむね満足できる」状況（B）評価

・学習の見通しをもって、積極的に和室や洋室のよさを伝えるために必要な語や文を見付け、要約して、考えを紹介カードにまとめようとしている。

・「設定の地図」を活用し、学習者自身で目的を選択し、進んで紹介カードにまとめようとしている。

「努力を要する」状況（C）への手立て

・他の学習者が挙げた、和室や洋室のよさが「生かしている」場面の中から選ぶように助言することで、カードにどちらのよさを書くか選ぶことができるようにする。
・「(その場面だと)なぜ、和室、洋室がいいのか。」を問う声かけをし、カードに書く内容を具体的に考えることができるようにする。
・授業者のモデル文を提示したり、同じようなよさを選んで書こうとしている学習者と交流したりする時間を設ける。
・ルーブリックの自分の学びに合った項目を活用させ、設定の地図を合わせて児童自身で次の手立てが考えられるようにそれらを掲示や配付する。

10　本時の学習

（1）本時の目標（4／9）

本文と自分の設定した場面を関連付けて、和室と洋室の「すごし方」のよさについて考え、短い文章でまとめることができる。

（2）本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価
1　学習者それぞれの設定を決める。その設定の根拠に合わせた本文の「すごし方」のよさを表している言葉はどれかを探し、自分の紹介文に取り入れるという本時の課題をつかむ。	・第一次で考えた場面から本時で、考える設定を選び、本文の「すごし方のよさ」を読み取り、自分の選んだ設定に合った言葉を選び、要約するという本時の課題をつかめるようにする。 ・自分の主張とその理由を納得してもらうにはどうすればいいかを問う。それにより、本文から必要な表現をみつけることの必要感を意識させる。	
設定に合わせて『すごし方のよさ』を要約しよう。		
2　④～⑩段落を音読する。	・自分の選んだ設定に合ったそれぞれの部屋のよさを本文から探すことを意識させて音読させる。 ・自分の選んだ設定に合ったすごし方のよさを見つけ、本文に線を引かせる。	
3　和室と洋室それぞれのすごし方のよさを比べ、自分の主張と理由に合う言葉を選ぶ。【要約する】	・和室と洋室のすごし方のよさを板書で比較して、自分の選んだ設定に合っている言葉を見つける手がかりにさせる。	
4　書いた文章を読んで、チェックリストをもとに納得してもらえる文章になっているか確かめ合う。【交流】	・チェックリストを提示し、理由と選んだ言葉に整合性があるかを確かめるように指示する。 ・書き直したくなったら、交流中であっても	◆［思考・判断・表現①］ ・自分の選んだ設定に合ったすごし方のよさを

	推敲してもよいと伝える。	本文の言葉から選んでいる。
5　本時の学習を振り返る。	・本時の学習で分かったことやできるようになったことを振り返らせ、次時では、どのように学びたいかを書くようにする。	◆［主体的に学習に取り組む態度①］ ワークシート ・積極的に和室や洋室のよさを伝えるために必要な語や文を要約し次時への学習の見通しをもてているか。

11　板書計画

